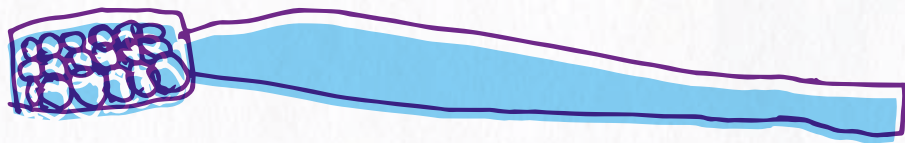


カルミ
ア



は
ぶ
ら
し

Vol.
225

2025.Mar.

職員募集！

さやま園では私たちと一緒に働いてくれる方を募集しています。
ご興味のある方はホームページのお問い合わせフォームかお電話でご連絡ください。

職種：生活支援員

●常勤職員（契約社員/1名）18歳～70歳まで 月給¥238,300
シフト制による週休2日（夜勤あり）

●パート職員（1名）18歳～70歳まで 時給¥1,225～
シフト制（時間相談可）

*未経験者可（研修が充実しているので安心して働けます。） *正社員登用あり



さやま園のホームページの
求人に関するお問い合わせ
を選択し、ご連絡ください。

<https://sayamaen.com/new-contact>

問い合わせ先 TEL: 042-391-3275

リクルート担当：三瓶・加川・對馬

ボランティアさん募集！

さやま園では様々な活動をしています。
そのお手伝いをしてくださる以下のボランティアさんを募集しています。
ご興味のある方はご連絡ください。

1

作業内容：季節に合った装飾作り
活動日時：平日の13:30～15:30

- ・利用者さんが余暇の時間に制作する、季節の装飾作りの土台となるものを制作していただける方を募集しています。
- ・活動に入る前に、職員より、活動の流れ等を簡単に説明します。
- ・ボランティアの皆さんには、下絵を描いてもらったり、装飾のパーツを作ってもらったり、利用者さんが簡単に制作に取り掛かりやすいよう装飾作りの準備をお願いいたします。

2

作業内容：利用者さんの手芸作品の仕上げ作業
活動日時：月曜日・金曜日 13:30～15:30

利用者さんの手芸作品の仕上げ作業をしていただける方を募集しています。作品は刺しゅう・カバン作り等様々です。作品に応じて手芸の内容をお伝えします。



寄付のお願い

依頼品目：消毒用タオル

感染症予防のための園内消毒に使用する布が不足しています。いらなくなったタオルを手のひらサイズに切ってご持参いただけると助かります。

問い合わせ先 TEL: 042-391-3275

ボランティア担当：長田
寄付担当：加川・對馬

発行元：指定障害者支援施設 さやま園

発行責任者：三瓶達矢

住所：〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-13

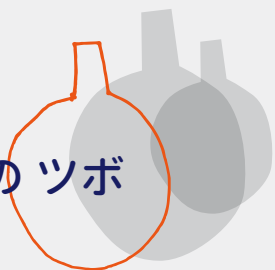
TEL: 042-391-3275 ・ FAX: 042-391-3276

さやま園のホームページ

<https://sayamaen.com>



おもいのツボ



「おもいのツボ」は毎号さやま園の職員がその時自身のツボにきた出来事や感じたことを書く企画です。

昔から歩くのが好きで、帰る際に道を変えたり、買い物ついでに普段は通らない道や知らない道を通ったりしていました。ゆっくり景色を眺めながらどこの道と繋^{つな}がっているのか考えるのが楽しくてワクワクします。以前は運動の為に、一駅歩いて帰ったりもしていましたが、最近では疲れて中々出来ていません。(笑)

また、買い物などの移動手段も車が多くなりました。便利で楽でそれはそれで良いですが、体重が気になり始めています・・・(汗)

そんな中、最近では各フロアに応援で入ることが増え、利用者さんと一緒に買い物や散歩に出かける機会があります。利用者さんと一緒に散歩をすると「ここには鯉がいるよ」とさやま園の周辺に何があるか教えてくれたり、「わんちゃんだ～」と普段と違う優しい表情を見せてくれたりととても新鮮です。利用者一人一人歩くスピードが違えば、見えている景色も違います。施設では見せない表情を見せてくれる利用者もいて新しい発見がたくさんあり、その発見がとても嬉しく感じ、改めて散歩の楽しさを実感しています。

短い距離から長い距離まで、これからもみなさんと一緒にたくさん歩き、そして、みなさんの色々な思いや表情をたくさん見つけていきたいと思います。



相談支援員 栗原好史



特集

おもいのツボ……………2

新年会……………3

スイーツクラブ……………5

さやま園 60 周年 ……………7

連載

にやりほっと……………8

對馬のさやまアルアル言いたい〜…11

ギャラリー……………13





2025
Happy New Year! 2025



今年最初の行事は・・・

さやま園の年始めの行事と言えば新年会です！

その前に初詣^{はつしげ}もありますが、年末年始に帰宅する利用者さんがいたり、各グループごとにお参りしたりするので、やはり年始めの全体行事と言えるのは「新年会」になります。

そんな新年会ですが、今年度は年末年始感染症^{感染症}が流行。急遽^{きんぐ}予定を変更し、お正月飾りを配した食堂で、参加できる人だけが集まり、園長が新年の挨拶^{あいさつ}をするという簡略化した形式で行われました。

実はその新年会で、大道芸人の「じっきいさん」にゲストパフォーマンスを披露^{ひろう}して頂く予定でした。やむを得ない事情だったこともあり、特別に日程を変更して2月末に改めてお呼びすることができました。

ホールに全グループが集まり、じっきいさんのスゴ技ジャグリングや皿回しなどを鑑賞。参加型の演目もあり、会場は笑顔と驚きの拍手に包まれて大盛り上がりでした。終了後、じっきいさんへお礼の花束を贈呈。手渡した利用者さんが誕生日だったこともあり、一緒にベースデーソングを歌いました。最後はみんな名残惜^{なごりお}しそうに手を振ってお別れを告げ、大成功のイベントとなりました。

じっきいさん、本当に楽しいひと時を有難うございました。



昨年からはじめた、利用者さんとの
おやつづくり。
『今年は、もう少しグレードアップ
しようよ!』、ということでもう
ちよっと手が込んだものって何だろ
う? ネットで検索・いまはレシピ
もすぐ出てきますもんね。便利すぎ
るう。

第一弾は『ティラミス』(※1)。
一見、ひえ〜手間も時間もかかりそ
う〜と思っていました、お菓子づ
くりの得意な職員にアドバイスをも
らい、たったの15分でできちゃうレ
シピを見つけました。利用者さん
にはミキサーでマスカルポーネチーズ
を柔らかくならせ、一方の利用
者さんにはビスケットをジップロッ

クに入れてめん棒でザクザクにくだいても
らい、最後は丁寧な層をつくらせてココアパ
ウダーを仕上げにかけてできあがり。こん
なに簡単にできちゃうんだと感動!

第2弾は『スイートポテト』
秋ならではの糖度が高い安納芋^{あんのういも}を蒸して・つ
ぶして、生クリームと混ぜてなめらかに・
さっとオーブンで焼き上げました。安納芋^{あんのういも}
ならではのしっとりクリーミーな食感で感
動しました。

やはり自分たちで作ると一層美味しく、
そして楽しく、職員たちもなんだかこの時
間に気持ちが満たされました。
それにしても、写真を見ると器用に調理
していっぱいいます! みなさん作るの好
きなんですね。

来年はさらにグレードアップかな〜。



出来上がったスイーツをみんなで実食。
固形物が食べられない人にはペースト状にして。



スイーツ作りに参加する利用者さん。
安納芋をつぶしたり、卵を塗る様子。





にやりほっと

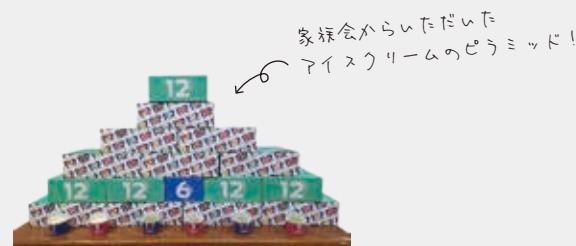
no.7

掲示された「にやりほっと」の
コメントを深ボリする企画

カルミア、リニューアル後では初となる「にやりほっと」。久しぶりに、さやま園の支援員・調理員・看護師など様々な部署からエピソードを募集しました。

「にやりほっと」とは、利用者さんとのやり取りの中で「にやり」とした出来事や、心が「ホッと」温くなった瞬間を振り返ることで利用者さんの強みに目を向けること。世間一般からすると福祉の仕事って大変だとかマイナスのイメージが多くあるかもしれませんが、今回エピソードを募集して今一度実感したのは、利用者さんから私たち職員も日々力をもらっているということでした。

それでは第7弾「にやりほっと」をご紹介します。



さやま園60周年記念パーティー

今年度の10月、さやま園は開設60周年を迎えました。人間という還暦です。

職員・利用者みなさんでお祝いしようと記念パーティーを開催しました。

第1部では盛り上がる昭和歌謡曲をかけて皆でダンス！特大手作りケーキに蝋燭やイチゴの飾りつけもしました。

第2部では、家族会から頂いた寄付で購入したサーティワンアイスクリームを食べながら、さやま園についてのスライドショーを上映。勤続20年の主任ナレーション付きで、ここにいるひと、建物、形を変えながら移り変わってきた園の歴史を皆で振り返りました。さやま園と一緒に年を重ねてきた利用者の方々の懐かしそうな表情が印象的でした。70周年のお祝いに向けて、これからも元気で、笑顔で、楽しく過ごしていきましょうね。



エピソード1

【手作りのプレゼント】

さやま園では1人部屋もしくは2人部屋で皆さん生活していらっしゃいます。2人部屋の利用者さんからうまれたほっこりするエピソード。

さやま園には編み物が得意な利用者さんがたくさん。Oさんもその1人です。活動のみならず、自室で編み物をしている場面を多々見かけます。そんなOさんと同室のHさん。いつぞやからかOさんお手製の毛糸の帽子を被っているではありませんか。

「素敵な帽子ですね」と声をかけると、嬉しそうに「Oさんにもらったの」とよく似合っていますよと声をかけると「ありがとう」と素敵な笑顔を返してくれました。

エピソード2

【あたたかいお手紙】



出会いがあれば別れあり。利用者さんがさやま園を退所されるというお別れがあれば、もちろんさやま園を退職する職員と利用者さんのお別れもあります。

年度途中ではありますが、2月、さやま園の広報活動にも関わっていた人見職員が退職されました。退職間際のお休みの中、さやま園の利用者の皆さんにお別れの挨拶へ来てくださいました。

廊下をまわり、それぞれの利用者さんに挨拶していたところ、ある利用者さんが人見職員に近付き、1枚の画用紙を手渡しました。そこには数人の人の絵が描かれ、「ひとみさんへ」との文字が。本人同士のみならず、「Tさん素敵!」と周りにいた職員もほっこりとした気持ちに。職員が手紙を受け取り、描かれている人に関して「これは誰?」と尋ねると、「兄貴!」というまさかの回答!意表をつく答えに一同大爆笑。いやいや、最終的には「ひとみさん、ありがとう」の感謝のお手紙とのこと。

Tさんこころ温まる瞬間をありがとう!

エピソード3

【アニマルセラピー】

あまり関わりのない別のグループの支援員からすると硬い表情をしていることが多い印象のHさん。そんなHさんのある日のエピソード。日中活動班「ポレポレ」グループにて行なわれたアニマルセラピーでの「コマ。コロナウイルス流行後、外部の団体の招待を控えていたこともあり実施ができていなかったアニマルセラピー。アニマルセラピーが行われていた頃のことを知らない職員が多数のなか、話題をさらったのはHさんの満面の笑みでした。

子犬が来ると優しく抱きしめ、微笑みを浮かべて撫でるHさん。隣の利用者さんの膝にいる子犬にも手を伸ばして撫でにいかうとするなどとても楽しまれた様子。実際には参加できなかった職員も多かったのですが、Hさんの写真を見て涙する職員もいたのだとか。支援員の心をほっこりとさせたHさんの笑顔。とても素敵です。



給食のメニューが
さやまアルアルになってくる夜勤者



給食が楽しみな利用者さんが多いです。それはそれは楽しみにされています。「夕食なーに？」夕食が終われば「朝食なに？」朝食食べ終わらない内にランチ、おやつとの質問責めがあります。多くの利用者さんからの質問に、繰り返し答えると学習効果が高まり、直近2日のメニューの暗記は、さやまの夜勤者にとっては容易なのです。

給食のメニュー暗記しがち。

夜勤者が話すスピード、絶対アナウンサーより早い。

利用者さんや園の情報をまとめて日勤者に引き継ぐための朝の連絡会。夕々深夜々早朝と働いていた夜勤者が朝9時に行く重要な役割です。

疲労ピークであろうこの時間に、さやま職員は正確に端的にそしてスピーディに話します。アナウンサーさんと比べて1.5倍速とイメージしてもらえるとよいでしょう。しゃべりの速さと情報量に新入職の職員（私も含めて）これを聞き取れる時が来るのだろうかと思惑。

夜勤引き継ぎ上級者は声のボリュームも大きく、しゃべりの早さ遅さ、強弱をつけて緩急があり、とても聞き取りやすいです。

黄色のファイルももちろんながら
嵐と話してる夜勤者
取っ回しで早く看護師含め職員



副^{つしま}長 対馬の

さやまアルアル言いたい〜!

今回は夜勤あるあるです。さやま園は24時間365日動いています。入所施設だからこそその夜勤という勤務。人間が睡眠をとるべき時間帯に働くわけですから、なかなかハードな勤務です。遅番が退勤した後は少ない職員（通常5名）で96名の利用者さんの対応をする。利用者さんの生活には欠かせない業務です。もちろんエピソードは多くなります。

ワード解説

夜勤入り…夜勤の1日目
明け…次の日のこと
例文 明けで友達とランチいきます

対馬
↓





伊藤さんに何の絵を描いているか尋ねると「クリスマス～」とその場でいつも答えてくださいます。他にも雪だるまや、家族、サンタクロース、チョコレートケーキ等、様々な絵を描いています。色彩はカラフルで、冬にまつわるテーマが多いのも、伊藤さんの絵の特徴です。ご家族と楽しいクリスマスを過ごしていたのかなと想像してしまいます。

目の手術をして、画材をクーピーからクレヨンに変えた頃から、すぐく絵を描き始めた伊藤さん。伊藤さんの絵をもっと知りたくて、描いているところ、お話を聞いてみました。

職員 「誰を描いているんですか？」

伊藤 「〇〇（お兄さんのお名前）」

伊藤さんの絵にはお父さんやお兄さん、大好きなご家族が登場します。また伊藤さんの描く人はいつも大きく開けた口の中に歯が絵がかけています。

職員 「これは歯ですよ？歯を描くのはどうして？」

伊藤 「・・・」

特にお答えにはなりませんでした。

伊藤さんの絵はクリスマスなど楽しい時を描いているので、人々が笑った時見える歯が印象に残っているからかな？いつも描かれる大きな歯は笑顔の象徴のように思いました。

多くを語らない伊藤さんですが、描いている姿や絵をじっくり拝見することで、伊藤さんが入所に暮らしていた環境や、思いを少し垣間見るコトができた気がします。

絵の変化

伊藤さんが使用している画材は、画用紙とクレヨン。クレヨンを一本一本よく見て慎重に色を選び、とても力強いタッチで描いていきます。

そんな伊藤さんの絵に、ある時変化がありました。それは今回の展示に向け、普段とは違った黒い画用紙に絵を描いたのがきっかけでした。

今まで白い画用紙に絵を描いていた時は、雪を点で表現していましたが、黒い画用紙に変えたところ、周りの黒い部分を全てクレヨンで塗りつぶすようになりました。「伊藤さん、このまわりは何ですか？」と尋ねると「ゆきー」とのこと。今まで点々で表現していたものと同じ雪でした。

それ以降、白い画用紙に絵を描いても、同じようにまわりをいろいろな色で塗りつぶすようになりました。